

## 令和7年神奈川県議会本会議第1回定例会 文化スポーツ観光常任委員会

令和7年3月18日

### 意見発表

#### ◆亀井たかつぐ委員

公明党神奈川県議団を代表しまして、本委員会に付託をされました諸議案等について意見、要望を申し述べます。

まずGREEN×EXPO 2027についてです。

GREEN×EXPO 2027は有料来場者数1,000万人以上を見込んでいることですが、県民への浸透がまだまだだと思います。県が18歳以上の県民3,000人を対象に昨年10月に実施した県民ニーズ調査では、横浜市で2027年にGREEN×EXPO 2027が開催されることを知っていると回答した人は23%ありました。引き続き認知度の向上が今後の大きな課題であります。せっかくミュージカルを制作、上演しても人が集まらないようでは、県の施策のPRにはつながりません。今からさらに府内の関係部局はもちろんのこと、横浜市、博覧会協会とも連携して、認知度の向上、機運醸成に努めていただくことを強く要望します。

次に、eスポーツの課題についてです。

eスポーツの暴力性やゲーム障害といった課題は、県の取組を進めるに当たり、切り離すことのできない課題だと考えます。eスポーツそのものの振興をしないという県の方向性は理解しましたが、施策推進のツールとして活用するに当たって、eスポーツが抱える課題については、しっかりと注意を払って取り組んでいただくことを要望します。

次に、開放区事業、文化芸術情報発信事業についてです。

知事肝煎りの事業であるマグカル開放区の廃止とともに、アートリーチ開放区の見直しについて御説明を頂きました。マグカル開放区は、アーティストが自由に音楽などのパフォーマンスを発表できる取組と承知をしていますが、文化ということであれば、音楽などのパフォーマンスよりも、県内各地にあるそれぞれの伝統文化の発掘や向上に努めるべきであったと考えます。これからはアートリーチということなので、今申し上げたような地元の文化の発掘や向上に、より努めていただくことを強く要望します。

次に、デフリンピックのレガシーについてです。

デフリンピックを契機に聴覚障害者が生活しやすい社会を実現していくことは、非常に重要なレガシーの一つと考えます。そのことが結果的に、聴覚障害者だけでなく障害を持つ多くの方々にとってプラスになることを切に願うところです。また、障害を持つ方々の生活向上とともに、今後ますます増加する高齢者の方々や外国籍県民の方々の生活向上も図られることが真のレガシーと考えます。本年開催されるデフリンピックの功績により、全ての方々の生活向上が成し遂げられることを強く要望します。

以上、意見、要望を申し上げまして、本常任委員会に付託をされました諸議案等につきまして、賛成を表明して意見発表とさせていただきます。